

- 2010 -

支えあい・いきいきサロンの活動 推進フォーラム

実施報告書



自分らしく いきいきと暮らせる 支えあいの まちづくり



隠岐の島町社会福祉協議会
隠岐の島町ボランティアセンター

目次

1. はじめに	P 1
2. 「ふれあい・いきいきサロン活動推進フォーラム」開催要項	P 2
3. 基調講演① 「地域における福祉活動への期待」	P 4
隠岐支庁・隠岐保健所長 村下 伯 氏	
4. 基調講演② 「地域における福祉活動がもたらす地域の活性化」	P 7
福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科 教授 藤井 悟 氏	
5. シンポジウム 「ふれあい・いきいきサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望」	P12
〈コーディネーター〉 福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科 教授 藤井 悟 氏	
〈コメンテーター〉 隠岐支庁・隠岐保健所長 村下 伯 氏	
〈シンポジスト〉	
・ 栄町7町内／お番茶ふれあいの集い	P13
・ 池 田 区／池田はつらつサロン	P15
・ 加 茂 区／はつらつクラブ	P18
・ 山 田 区／山田振興会	P20
6. 参加者の感想	P25
7. 「ふれあい・いきいきサロン」活動実践団体一覧	P26

●はじめに

私たちの住む隠岐の島町には、悠久より伝え、表現されてきた伝統・文化・芸能・歴史を基調とする人々の共助の営みが、今も大切に受け継がれています。

しかし、押し寄せる少子高齢化の波、減少し続ける人口と生活様式の都会化、産業構造の変化を背景に、地域の“たすけあい”というかけがえのない財産は、脆弱化しつつあるといえるのではないのでしょうか……

あなたは、高齢や障がい、病気、事故等によって身体が思うように機能しなくなったときや、目の前の育児におわれ、親しい友人と疎遠になることで、自らの“これから”に不安をおぼえることはありませんか？それに対して、公的な福祉サービスのみで、あなたの不安は全て解消できますか？

確かに、人が生き、暮らしていくことに、公的な福祉サービスは必要不可欠です。

しかし、精神的な支えも同様、なくてはなりません。その支えは、家族であり、友人であり、近隣住民に他なりません。

本報告書は、行政や福祉研究者の視点から、さらには、地域において一早く「ふれあい・いきいきサロン活動」を通じて、住みよい地域づくりに取り組んできた自治会区や団体の実践報告をもとに「安心して暮らし続けるために..」の極意を探ることを目的として、平成22年2月24日（水）、隠岐島文化会館・大ホールにおいて、総勢280名の方々にお集まりいただき開催された『ふれあい・いきいきサロン活動推進フォーラム』についてまとめたものです。

本フォーラムの開催にあたって、福山平成大学・藤井悟教授、並びに隠岐保健所・村下伯所長をはじめ、シンポジストとしてご報告いただいた皆さま、そしてご協力いただいた関係機関の皆さまに深甚なる感謝を申し上げますとともに、本報告書が、本町におけるボランティア活動のさらなる振興と、地域福祉活動促進の一助となれば幸いです。

なお、本報告書では、一部「ふれあい・いきいきサロン」を「サロン」と表現している部分がありますので、ご覧の際は、置き換えてお読み下さい。



平成22年4月

隠岐の島町社会福祉協議会

ふれあい・いきいきサロン活動推進フォーラム 開催要項

— 地域発 福祉活動がもたらす この島の更なる活性化 —

◆趣旨

島根県・隠岐の島町は、島根半島の北東約80kmの海上に位置し、かつて日本海を航行する船の標識とみなされたという大満寺山をシンボルに、離島だからこそ残された数々の自然の美しさと、悠久より伝え、表現されてきた伝統／文化／芸能・歴史を基調とする人々の共助の営みが、“隠岐らしさ”として私たちの世代へと大切に受け継がれてきました。

本フォーラムは、このような“隠岐らしさ”を基調とする共助の営みを活かし、自治会区における「ふれあいサロン」をはじめとして先駆的に実践される福祉活動を広く発信することで、地域の更なる活性化のための体制整備・強化を促進し、それらの活動の展望を“おき流福祉”として提案・推進していくことを目的に開催します。

◆主催

隠岐の島町社会福祉協議会／隠岐の島町ボランティアセンター

◆共催

隠岐の島町民生児童委員協議会
隠岐の島町老人クラブ連合会
住民参加型在宅福祉サービス お手伝いネットワーク「いろは」

◆後援

隠岐支庁隠岐保健所・隠岐の島町・隠岐地域介護支援専門員協会

◆期日

平成22年2月24日（水） 13:00～16:00

◆会場

隠岐島文化会館／大ホール（隠岐の島町西町吉田の二、2番地） TEL：2-0237

◆参加対象

「ふれあい・いきいきサロン」実践団体会員・自治会区／町内会等、社会福祉協議会／ボランティアセンター、「災害時たすけあいモデル事業」指定地区、共同募金会、婦人会、老人クラブ、社会福祉施設等の関係者・民生児童委員・その他地域福祉に関心のある方等

◆参加定員

200名程度（先着順）



この取り組みには
共助基金が活用されています。

◆参加費

無 料

◆日程及び内容

12:30	13:00	13:10	13:40	14:30	14:40	15:55	16:00
受 付	開会	基調講演①	基調講演②	休憩	シンポジウム	閉会	

(1) 基調講演①

「地域における福祉活動への期待」

隠岐支庁隠岐保健所 所長 村下 伯 氏

(2) 基調講演②

「地域における福祉活動がもたらす 地域の活性化」

福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科 教授 藤井 悟 氏

(3) シンポジウム

「ふれあい・いきいきサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望」

ふれあい・いきいきサロン活動を地域福祉活動の軸として実践される自治会区の報告から、隠岐ならではの地域特性を活かした地域福祉活動がもたらす真髓や意義、展開方策等について協議し、真の『いつまでも安心・安全に暮らすことのできる“地域”とは何か?』を探ります。

〈コーディネーター〉

福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科 教授 藤井 悟 氏

〈コメンテーター〉

隠岐支庁隠岐保健所 所長 村下 伯 氏

〈シンポジスト〉

栄町7町内 / お番茶ふれあいの集い

池田区 / 池田はつらつサロン

加茂区 / はつらつクラブ

山田区 / 山田振興会

自治会区長さんや、ふれあいサロン実践団体の世話人さんにご登壇いただき、地域の現状や、活動開始の経緯、活動内容、その課題・展望などについてご報告いただきます。

◆申込方法

2月16日（火）までに、別紙の申込書、又は申込書同様の内容を下記宛お電話下さい。

◆問い合わせ／申込み先

隠岐の島町社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係 担当：松浦／村上
〒685-0027 隠岐の島町原田 396 番地 （隠岐の島町社会福祉センター 内）
TEL：2-0685 FAX：2-4517 E-mail：voc@oki-fukushi.net

「地域における福祉活動への期待」

島根県隠岐支庁・隠岐保健所長 村下 伯 氏



▲ 隠岐保健所・村下 伯 所長

私からは、『地域における福祉活動への期待』と題しまして、「はつらつサロン事業（隠岐の島町介護予防事業）」に参加させていただいた経験と、保健・医療の立場から、サロン活動と“健康寿命”との関係について情報提供させていただき、さらに、県内でも先駆的といわれる隠岐の島町のサロン活動の特徴を紹介し、最後に今後のサロン活動に期待することをお話しさせていただきたいと思います。

私は、この2月に、「はつらつサロン事業」に計4回お邪魔させていただき、私自身も大変いやされたわ

けですが、参加されている方々にインタビューしてみると、多くの方から聞かれたのが、「いやあ、ここに来ると人に会うことができる!」という言葉。また、「ここに来るとおしゃべりができる!」、「一人で暮らしていると人と話す機会が少ないけれど、ここでは笑って一時を過ごすことができる!」、「他の人と会うことで、元気が出る!」、このような声が聞かれるということこそ、素晴らしい活動であると思っています。

全町で展開される「ふれあい・いきいきサロン活動」でも、同じような声があると伺っているわけですが、これらをまとめてみますと「サロン活動には、人と人との交流の場としての大きな役割がある」ということになるかと思います。

アメリカでの追跡調査の結果から出されたデータによれば、「人との交流の場がある人」と「社会的に孤立している人」では、後者の方が、死亡率が3倍高いというデータも出ています。日本においても「生存日数と友人・近隣ネットワーク」として、同様のデータが発表されています。

これらのデータからすれば、「人との交流がある」ということが“寿命”と大いに関係しているということになります。

次に、隠岐の島町のサロン活動の特徴についてふれてみたいと思います。先程、サロン活動が“交流の場”として、寿命と大きく関係しており、重要な役割をになっているとお話ししましたが、隠岐の島町での取り組みの素晴らしいと思う点を五つあげてみました。

一つ目は、集会所等の身近な場所で開催していること。そして、参加者同士が顔なじみであるということ。

自分の庭のような存在である集会所だからこそ出かけやすく、かつ顔なじみだからこそ集まりやすいということがいえます。

- (1) 集会所等身近な場所で実施していること
- (2) 誰もが参加できる形にしていること
- (3) 回数・内容は自由にしていること
- (4) ゆつくりリズムを基本にしていること
- (5) 健康づくりの視点を取り入れていること

▲ 隠岐の島町のサロン活動の特徴

二つ目、誰もが参加できる形にしていること。

この後のシンポジウムで、実際に活動されている皆さまから、具体的な実践についてご報告がありますが、普段外出していない人にも声かけをされていること、さらに、高齢者と子供との世代間交流の場にもなっていることが特徴としてあげられます。

そして三つ目は、開催回数や内容は、それぞれのサロンに応じて自由にしていること。これは大きなメリットでもあると思います。

特に、回数にあっては、「月1回程度」の“程度”としているところが特筆されるところで、これは、参加する側も、協力員としても、地域の活動や祭事等に応じて、臨機応変にできるということであり、でも、月1回はどこかで調整して集まろうよ！という強制力のない意識付けになっているのではないかと思います。

四つ目、“ゆっくりリズム”を基本にしていること。これは素敵なところで、活動の間にホッとできる時間やお茶飲みの時間を設けることで、参加者の幅を広げることができているのではないかと思います。

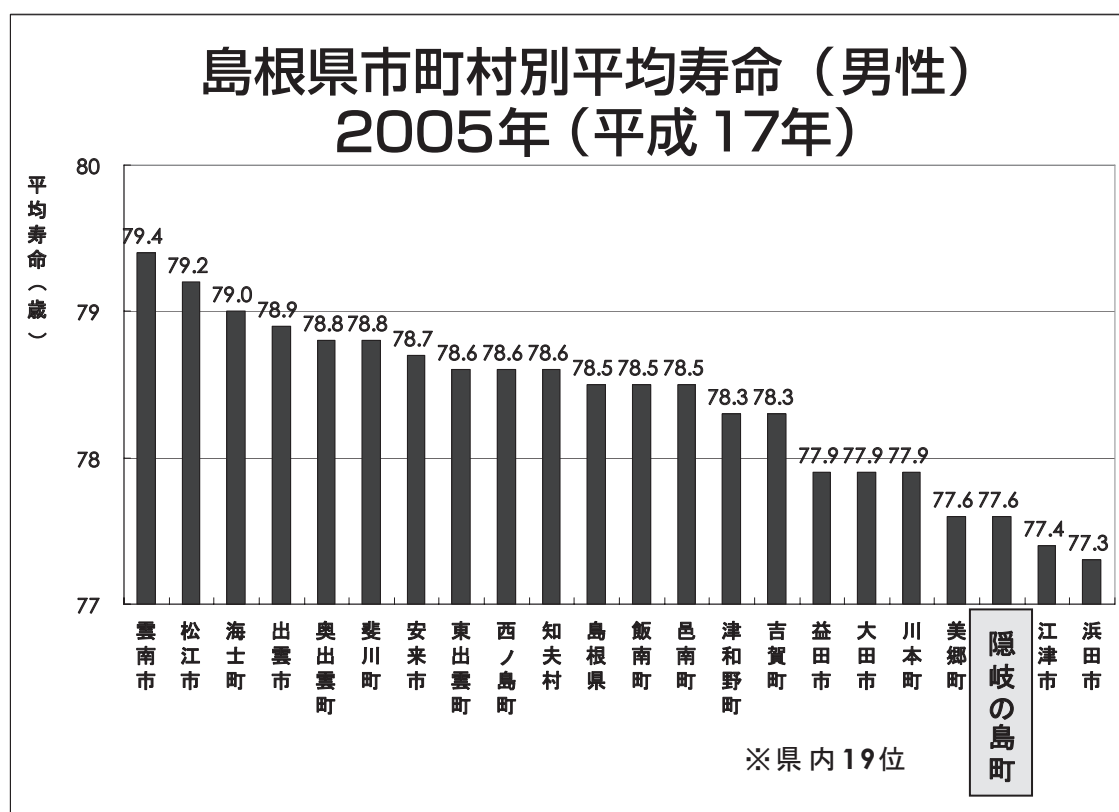
そして五つ目、この後のシンポジウムでもご報告されることと思いますが、町の保健師さんや地域包括支援センター職員さんに来ていただいて、口腔に関することや栄養に関すること、体力づくりに関することなど、健康づくりの視点を取り入れて活動していること。これも隠岐の島町のサロンの特徴としてあげられると思います。

ぜひ、このような特徴を、サロンを実践しておられる皆さまには今後とも大切にしていきたいと思いますし、このようなすばらしい特徴を持ったサロンが、さらに隠岐の島町の各地で広がっていくことを願っております。

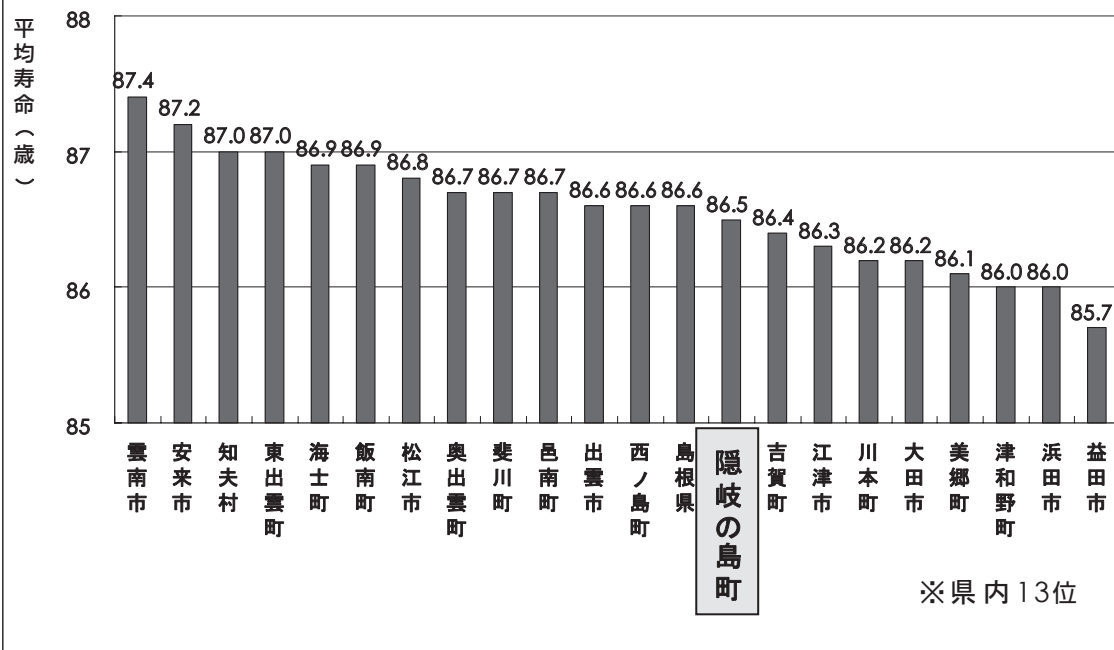
最後に、今後のサロン活動に期待することをお話ししたいと思います。

私が、「はつらつサロン事業」や町の「介護予防教室」等に参加させていただいて率直に感じることは「男性の参加が少ないなあ…」という点。実際に参加しておられる方々からも、同様の声を伺っています。

ここで、島根県の市町村別の平均寿命をグラフで見えます。



島根県市町村別平均寿命（女性） 2005年（平成17年）



順位	市町村	男性	女性	男女差
1位	隠岐の島町	77.6歳	86.5歳	8.9歳
	島根県	78.5歳	86.6歳	8.1歳
21位	松江市	79.2歳	86.8歳	7.6歳

男性では、県平均78.5歳に対して、隠岐の島町はなんとワースト3位の77.6歳なんです。一方女性性は、県平均86.6歳に対して、ほぼ同じ86.5歳となっていますが、13位なんです。

次に、平均寿命の男女差を見てみます。隠岐の島町は、男女差8.9歳。これは、県下1位なんです。なんとか男性も、女性と同じくらい、寿命が延びて

欲しいと思っています。

ここで、先程「人との交流・つきあいがある人ほど、寿命が長い」と申し上げたことを思い出して下さい。そして提案なんですが、男性の方にも元気で長生きしていただくために、ぜひ、男性のサロンへの参加をもっともっと呼びかけていただければと思っています。

次に、サロンに取り組んでおられます皆さまの中では、すでに実践しておられることかとお見受けしますが、麻痺（マヒ）や障がいのある方、外出がおっくうになった方々も参加できる工夫をしていただいて、さらに輪を広げていただきたいと思います。

そして最後に、サロン活動を「地域づくり・まちづくり」の視点でも取り組んでいただきたいと思います。

今、家族や地域との関係性がくずれて孤立することにより、生活機能の低下をまねくということが専門家から報告されています。これは、高齢者にも、子供にもいえることかと思っています。

そういった中、家族や地域との関係性を取り戻すためにも、サロン活動は非常に有効な手段であると思っています。

今後、サロン活動が地域の活性化のきっかけになっていくことを期待するところですし、行政としてもサロン活動を支援していきたいと思っています。そして、今回のフォーラムをきっかけに、「地域づくり・まちづくり」を皆さまと一緒にすすめていきたいという想いを申し上げて、私の講演を終わります。

福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科 教授 藤井 悟 氏

●はじめに

広島県・福山市（人口約47万人）にあります「福山平成大学」からやってまいりました藤井と申します。

実は、10年前に一度、旧西郷町社会福祉協議会主催の研修会で邪魔させていただいたことがあるんですが、縁あって、新設の隠岐の島町へおさそいをいただき「10年前とどのような変化があるのかなあ」と、非常に興味もあって、再度邪魔させていただいたところです。



1. いま私たちの地域は、どう変化しているのか

では、早速レジュメにそって進めさせていただきますが、この10年、社会でも、皆さんの周りでも、一体どのような変化があったのでしょうか。地域福祉ということに関していいますと、一番大きな出来事は、やはり“市町村合併”ではないかと思っています。

この行政合併は、当然ですが、福祉だけでなく、自治会活動や地域の様々な団体の活動、さらには住民の生活全般にも大きな影響を与えたと思うわけです。

今まで人口は、一般的には右肩上がりに増加していく傾向にあると予測されていたわけですが、その予測とは逆に、人口減少社会に転換しているような状況です。

これにともなって、ご来場の皆さんも実感しておられるかと思いますが、少子・高齢化や小世帯員化、単身世帯・二人暮らし世帯の増加により、地域における人間関係や連帯感が薄くなってきている、これは家族の中でも同様のことがいえるかと思います。

ではここで、新聞記事のスライドを見てみます。「広島県の特別養護老人ホーム待機者数」についてふられている中国新聞の記事です。なんと、7,766人の待機者がいるというのです。広島県だけで約8,000

人の方々が、特別養護老人ホームへの入所を待っているという状態です。いかに高齢者が増加し、かつ、介護を必要とする方々も増えてきているかということがうかがえます。

この記事を見て、皆さんはどう思われますか？「自分は元気だから関係ない！」あるいは「うちの親族にも入所希望の者がいるんだけど、同じように待機状態なんだ」、「もっと特別養護老人ホームを建設すればいいのではないか！」というように、人それぞれで様々な考えを持っておられるでしょう。

広島県昨年8月

特養「自宅待機」7766人

要介護度3以上で4127人

施設などに入所できず、自宅へ通っている「待機者」は、昨年8月時点、7766人であることが、県の調査で分かった。このうち、特に介護が必要とされる要介護度3以上のお年寄りは4127人に入っている。

県内の特養167施設（定員9116人）に、新たに入所を希望しているのは1万980人だった。これを精査したところ、特養以外の高齢施設や介護老人保健施設、認知症グループホーム、有料老人ホームなどに入所している人は約6割の1万1914人。約4割は増減を目指している7766人が自宅を、

で生活していた。自宅生活者のうち、要介護度3（併せ）や着替えなどに助けが必要）55（介助）を要する人は生計が不可能の人は4127人。2000年10月時点の国調と比較して371人減ったものの、県介護保険課は「現状は重く受け止めている。特養への入所希望をすべからず、介護を望む人が施設入所したい」とする。

県は09年度から3年間の介護保険事業支援計画で、特養は施設で876人分の定増を、居たけに加え、老健グループホーム、有料施設や認知症グループホームなどの整備を計3725人分の増入、3725人分の減入、

広島県内の特別養護老人ホームの入所希望のうち、他の介護保

(永山啓)

そして次の記事、都道府県庁所在地並びに政令指定都市における福祉事務所のケースワーカー一人が担当する生活保護世帯数が104世帯になっていると、見出しで大きく掲載しています。大体、一人のケースワーカーで担当する生活保護世帯数は、市町村の福祉事務所によってこととなりますが、「職員さんも大変だなあ」で終わってはダメなんです。なぜ、生活保護を受給する世帯が増えてきたのか・・・、これを考えなくてはいかなければなりません。

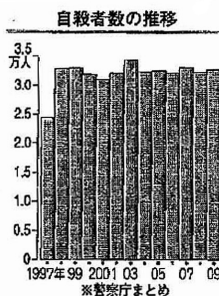
県 所 在 市	2009 年	08 年	世 帯 数	人 口	県 庁 所 在 市・ 政 令 市
広島	100	99			
山口	85	68			
岡山	102	95			
松江	95	91			
鳥取	93	85			

※各年の11月時点

この自死者数増加の背景を調査してみます

靖き、鳩山政権成立後
 の昨年9月以降は、相
 対的には毎月前年を下
 回ったものの、大きく
 改善する兆しは見えて
 いない。
 府府は、医師や市民
 団体の協力も得て内閣
 府に自殺問題の「緊急
 対策チーム」を設置。
 昨年1月には一部の一
 人暮らしの窓口に精神
 保健の専門家配置
 するなどの対策を進め
 ている。
 警視庁によると、都
 道府県別の年間自殺者
 数で増加が目立つのは
 大坂（146人減）、愛
 知（68人増）など。
 逆に減少が多いのは
 北海道（277人減）、
 北海道（207人減）、
 旭川（146人減）、
 青森（146人減）、
 秋田（146人減）、
 山形（146人減）、
 宮城（146人減）、
 福島（146人減）、
 茨城（146人減）、
 栃木（146人減）、
 群馬（146人減）、
 埼玉（146人減）、
 千葉（146人減）、
 東京（146人減）、
 神奈川（146人減）、
 新潟（146人減）、
 富山（146人減）、
 石川（146人減）、
 福井（146人減）、
 山梨（146人減）、
 長野（146人減）、
 岐阜（146人減）、
 愛媛（146人減）、
 高松（146人減）、
 香川（146人減）、
 徳島（146人減）、
 高知（146人減）、
 佐賀（146人減）、
 大分（146人減）、
 熊本（146人減）、
 鹿児島（146人減）、
 沖縄（146人減）。

自殺者数の推移
 万人
 3.5
 3.0
 2.5
 2.0
 1.5
 1.0
 0.5
 0
 1997年 99 2001 03 05 07 09
 ※警察庁まとめ



と、経済苦、生活苦というのが最も多いと、データでは出ています。

経済の低迷が、これほどまでに人の命や暮らしに影響を及ぼすものでしょうか。企業の活動が低下すれば事業の縮小や人を解雇したりするのは当たり前だと考える方もあるかもしれません。

しかし、その影響を最小限に抑えるのは経営者や行政の責任であり、国民の生命暮らしを守るための方策の不十分さが自殺の一因とも考えられます。

一方、病気や人間関係の希薄化もその遠因にあげられています。なぜ、死を考える前に、「親族や友人に相談することができなかったのか」、「悩み、つらさを打ち明けることができなかったのか」、「いや、打ち明けたんだけど結局どうにもならなかった」という人もいるでしょう。

私たち、住みよいまちづくりを目指す人間にとって何が一番大事かという、健康であり、命であります。命があってはじめて何事も進むんです。

今、この命というものが、非常に危険にさらされ、軽んじられている。こうした中で、児童の虐待も、高齢者の虐待も発生してしまう、特徴的な事例かもしれません。

なぜ人間は、このように命を軽んずるようになってしまったのか、専門機関だけでなく、住民も一緒に考えていかなければならないのです。

今一度、“変化”ということ振り返ってみたいと思います。

高齢化については、地域によってはすでに30%台に達した地域もありますが、全国平均でも間もなく25%に突入してくるでしょうし、このことが大変危惧されているわけです。しかし、私自身は、これは大変喜ばしいことだと思っています。“長寿”ということは人類の永年の夢でもあったわけですから、元気に自分らしく暮らせるような社会を創っていくことを考え、実践していけばいいのです。問題は、老後の暮らしが個人の経済力・健康度・家族の支援力に左右されていることなのです。

一方、少子化にあっては、出生数前年比10%減という状況になってきています。これは将来の労働力人口や社会の活力とも関係してきますので、大きな問題でもあります。

次に、小世帯員化についてですが、これは、私たちの福祉に最も大きく影響してきます。一昔前は三世代同居が当たり前でした。都市部では核家族化がどんどん進行しているんですが、お聞きしますと、この隠岐の島町でも「人口減少・世帯数増」という状況にあるとのこと。

世帯員が少なくなるということは、家族内の助け合いができにくくなるということなんです。非常に不安定で、もろい家庭という構図になってしまいます。昔のように三世代いると、お爺さんに介護が必要になっても、お婆さんやお母さん、お父さんまで気を配るようになり、自然と助け合うことができたんです。また、兄弟が多ければ、ローテーションを組みながら、助けあうことができたんです。このような、家族、親族間での助け合いが困難な社会になってきているんです。

2. 変化によって生まれた課題は何か

少子化・小世帯員化によって、まず家族のきずなが弱体化し家族の不安定化が始まります。一方では、近隣との付き合いもうすれ、家庭内では児童・高齢者の虐待という課題が生まれます。さらに、住民の孤立化・孤独化から、災害時の対応、孤独死、振り込め詐欺被害などの課題も出てきます。最悪の場合、集落の伝統行事も維持できなくなり、集落の維持・存続の危機にもつながりかねません。

3. その課題は、誰が、どんな方法で、解決を図るのか

問題は、このような課題を、誰がどのように解決を果たしていくのかということになります。これらの課題を放置すると、そのまま暮らしにくさに直結してしまうということになるんです。

解決のための具体的な手法としては、まず「当事者や家族などによる自助」、そして「地域住民によるボランティア・福祉活動などの互助」、「介護保険サービスや行政施策などの公的支援」がありますが、国の方向性は今、『自助→互助→公助』の順番にあるんです。

しかし、私は、まず“公助”が基本だと考えます。それは、日本国憲法第25条1項において「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」と定められているからなんです。

その上で、現実生活にこまっている、暮らしにくさがある、だから住民もお互いに支えあい、協力もしていないといけないだろう。これが、原点の考え方なんだと私は考えます。

▼「お番茶ふれあいの集い」外出



4. これからの地域づくりの方向性

聞きなれた言葉が並びますが、「小地域における支え合いシステムの構築」、「住民総ぐるみの支援体制づくり」、「具体的な生活支援の体制づくり」、「財源・人材・場づくり」ということなんですが、私が一番いいたいのは「SOSが、気軽に発信できる信頼関係づくり」です。

SOSというのは、「私こんなことにこまっています。」「こんなことに不自由してます。」ということが、皆さんの地域の中で、手をあげることができるかということなんです。もし、出したときに「あ〜分かったよ。今は忙しいけど、明後日にはやってもいいよ。」ということが、いえるかどうかなんです。

しかし、「あの人はたくさん貯金があるのに・・・」などを態度や言葉で出してしまったら、もう何もいえなくなるんです。何も始まらなくなるんです。

昔は、地域の人がつちかってきた得意技を、地域の中で出しあいながら暮らしてきたはずです。とはいえ、“助け上手”だけではダメなんです。“助けられ上手”でもあってほしいんです。このことを、一人でも多くの方々に知っていただきたいと思います。

5. 「ふれあい・いきいきサロン」とは……

では、本論の「ふれあい・いきいきサロン」についてですが、実は、形があるようでないのが、サロン活動の特徴でもあるんです。それは、その地域特性に応じて柔軟に実施していくことが基本だからなんです。

そして、孤立・孤独、閉じこもりの防止、安否や健康状態の確認、交流や健康維持、学習と、大変欲張りではありますが、地域特性や手法によって、様々なことを狙えるものでもあるんです。

次に、サロン活動を実践していく上での課題についてですが、サロンへ参加したい地域住民であれば、『来る者こばまず』がベストだと私は思うんですが、全国的にも、以下の五点が多く聞かされます。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ①利用対象者 | ②会場（公民館、集会所、空き屋等……） |
| ③担い手（リーダー、ボランティアなど） | ④運営財源（利用料、補助金・寄付金等） |
| ⑤開催時間や内容（昼食や、講師 等） | |

以上のように、サロン活動には、全国的に解決していかなければならない課題もありますが、非常に有効な、発展性もある地域活動のメニューだと思っています。

6. 「ふれあい・いきいきサロン」と地域福祉の関わり

今回の、もう一つのテーマ、サロン活動と地域福祉の関わりについてお話しします。

少し視点を変えてみましょう。

サロン活動とはいえ、未来永劫30年、40年続けられるかという、疑問を感じずにはいられません。私は、サロン活動は、『地域の中で地域福祉を考える出発点』だと認識しています。

さらにいえば、『サロン活動は、“地域づくり”の運動』なんです。単なる事業ではないんです。そこに、ぜひ、多くの方が気付いていただきたいと思うわけです。

そういう意味では、高齢者だけでなく、多様な世代や人々との接点が大切になってくるわけですし、限られた地域住民の中で、どうやってお互いが支えあっていくのか、この視点を大事にいただきたいと思います。同一集団、対立集団だけを創ってはダメなんです。

隠岐の島町でも同様の傾向があるようですが、男性がサロンに出かけたがらない。じゃあ、その男性の特技をいかしたような講座を企画してみれば解決できないでしょうか。そういった工夫も必要になってくるということなんです。

そして、サロン活動の最終目標は、『安心・安全のネットワークづくり』だと思っていますし、そうならないかなければならないと、私は認識しています。サロンに来ていたのに来なくなった人、来たいと思っているけど来れない人など、サロンの中だけでなく地域社会全体を見渡した考え方、動きを取れるようになれば、何が地域の課題なのかも見えてくるでしょうし、どのようなつながりがあれば解決できる見込みがあるのかが見えてくるということです。

7. これからも隠岐の島町に安心して住み続けるために

今後、隠岐の島町内でも、様々な地域活動がめばえ、発展していくでしょう。

そうなったとき、社会福祉協議会では、90の自治会区を全て見渡すことはできません。

したがって、社会福祉協議会としても、最も有効で動きやすい、七つか八つの「圏域づくり」が必要になってくるでしょう。

そういった新たなエリア創りをやっていかなければ、切磋琢磨（せっさたくま）しあう、魅力的な活動へはつながっていきにくいのかもしれませんので、ぜひ、社会福祉協議会の職員さんにも、町内の中間的なエリアづくりについて考えていただきたいと思います。

最後に、『**地域福祉は、未来の「ふるさとづくり」 今の地域を次世代にどう引き継ぐか 安心して暮らし続けられる地域づくりを・・・**』という言葉でしめくります。

もっと簡潔にいいます。マラソンで例えれば、私たちは今を生きる駅伝のランナーなんです。

ランナーは、次を走る仲間（たすき）を渡して走ってもらう訳なんです。今を生きるランナーが、いい加減な走り方をしていれば、後を走ってもらう次世代の人達に、いい加減さまで引き継いでしまうことになるんです。

そうではなく、私たちの前のランナーから託された（たすき）という名の“想い・伝統・住みよい地域社会”を、もう一歩でも二歩でも良くして、次のランナーにどう引き継いでいくかが、今を生きる私たちの使命でもあるんです。

単なる「福祉」とか「助け合い」とかいう次元ではなく、住民一人ひとりが、“住みよい地域を引き継ぐランナー”であることを認識して、サロン活動に取り組んでいただければと思います。

皆さんの住んでいる地域を良くしていくのは、皆さん以外いないんです。

どうぞ、これからお身体を大事に、住みよい地域づくりに一層はげんでいただきたいというエールをもって、私の講演を終わらせていただきます。

シンポジウム

「ふれあい・いきいきサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望」

コーディネーター：	福山平成大学 福祉健康学部 福祉学科	教授	藤井 悟 氏
コメンテーター：	島根県隠岐支庁・隠岐保健所	所長	村下 伯 氏
シンポジスト：	お番茶ふれあいの集い（栄町7町内）	代表	藤田 修 氏
	池田区	区長	和田 求 氏
	池田はつらつサロン	代表	服部 富善 氏
	加茂区	副区長	門脇 弘 氏
	はつらつクラブ	代表	野津 智恵子 氏
	山田区	区長	田中井 敏勝 氏
	山田振興会	代表	中西 昇 氏

引き続き、コーディネーターをさせていただきます「福山平成大学」藤井と申します。

このシンポジウムでは、二地区ずつご報告をいただいて、村下先生からコメントをいただく。このように進めてまいりたいと思います。

そして、時間に余裕が持てれば、質問等を加えながら、時間までつとめさせていただきたいと思います。それではまず、栄町7町内「お番茶ふれあいの集い」藤田様よりお願いいたします。

ふれあい・いきいきサロン活動推進フォーラム

主催：隠岐の島町社会福祉協議会 共催：隠岐の島町民生児童委員協議会・隠岐の島町老人クラブ連合会・お手伝いネットワーク いろは



▲ シンポジウム 「ふれあい・いきいきサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望」

●栄町7町内「お番茶ふれあいの集い」活動の実践から探る地域福祉活動の展望

お番茶ふれあいの集い 代表 藤田 修



▲「お番茶ふれあいの集い」・藤田代表

私は、先程ご紹介をいただきました「お番茶ふれあいの集い」というサロン活動を実践しております、栄町7町内の藤田と申します。

私からは、栄町7町内の概要と、サロン活動をはじめた経緯、現在の実施内容とその中で見えてきた課題、最後に今後の展望についてご報告いたします。

まず、栄町7町内についてですが、ご来場の皆さまも栄町はご存じでしょうが、7町内をはっきりご存じの方は少ないのではないのでしょうか。

宮城ヶ丘住宅の近くで、三分の二が高台の、大変見晴らしの良い地域です。

戸数は、現在130戸程で、30年程前から開発が進

んできた新興住宅地です。

人口の推移は、図（右図）のとおりとなっておりますが、人口や児童数の減、独居高齢者や高齢夫婦等の世帯数増という、先程、藤井先生が講演で危惧されたとおりの人口動態をたどっています。

さらに、新興住宅地であるがゆえに、給与生活者が多く、町内会活動への参加者の固定化や近隣とのつながりの希薄化が深刻です。

実は、栄町7町内には、“熟年会”という60歳以上の方々と構成する町内組織がありますが、活動性の低下した方や障がいのある方などは、熟年会の活動に参加できないという地域の課題があることを、親しい者同士の「お茶飲み場」で聞きました。

項 目	(1) H15年	(2) H22年	増 減 【(2)-(1)】
(1)人 口	366	341	-25
(2)世 帯 数	124	130	6
(3)乳幼児、児童・生徒数 (0～14歳)	75	64	-11
(4)15～64歳人口	254	221	-33
(5)高齢者人口 (65歳以上)	37	56	19
(6)高齢化率 (65歳以上の人口÷地区人口)	10.1 %	16.4 %	6.3 %

▲栄町7町内人口推移

会 名 称	お番茶ふれあいの集い ※お茶を飲みながらみんなで楽しもう！という意味
参加対象者	栄町7町内在住で、独居高齢者・障がい者などの、閉じこもり傾向にある方
協 力 員	介護経験者、看護経験者、会計士OB、民生委員
基本開催場所	栄町7区集会所
基本開催日時	月に1回(平成13年6月 ～)
参加者負担金 (1人1回あたり)	低所得者などを考慮し、現在は無料 行事別に、徴収する場合あり
参加予定数 (月1回あたり)	毎回、12～13名

▲「お番茶ふれあいの集い」概要

私たちは「これではいけない！熟年会に参加できない高齢者や障がい者も、みんなで声かけあって、町内から閉じこもりの者をなくし、誰もが安気に暮らせる町内の雰囲気づくりが必要ではないか！」と話し合い、これがサロン活動開始のきっかけになったわけです。

まず、運営方針や参加対象者はどうするか？世話人はどうするか？などを話し合っいき、普段近

所付き合いが薄く、閉じこもり傾向にある高齢者や障がいのある方も広く参加していただきたいということで、民生児童委員にも声かけや助言、運営面での協力をしていただくことになりました。

そして、運営方針も『町内会の閉じこもりがちな高齢者や障がい者などにも声をかけての「お茶飲み場」にしよう』と決まり、あわせて会の名称も、運営方針にちなんで『お番茶ふれあいの集い』として、平成13年6月に立ち上げたわけです。

平成21年度の活動としては、4月の総会をはじめとして、外出活動や季節の行事などを行っています。

実施時期	内容	参加予定	実施時期	内容	参加予定
4月20日	総会	12名	10月中旬	お寺参り	12名
5月中旬	風景を楽しむ 施設見学	13名	11月中旬	軽スポーツを楽しむ	12名
6月中旬	ちまき作り	14名	12月中旬	クリスマス会	12名
7月初旬	七夕行事	14名	1月	—	
8月下旬	盆踊り	11名	2月初旬	新春お抹茶会	12名
9月下旬	お月見 健康教室	14名	3月初旬	ひな祭り	13名

会員の方々の意見をうかがいますと、

- ・家にいるとマイナスなことばかり考えがちだけど、大笑いできて、命の洗濯になるわー！
- ・一人でとる食事はさみしかったけど、大勢だとたのしい・・・
- ・一人で家にいるとテレビが友達・・・参加すればいろんなニュースや健康について学ぶことができる。
- ・運動になってサッパリできる。
- ・ワイワイ、ガヤガヤが一番楽しいし、心がいやされて、元気が出たわの。

など、協力員（世話人）としても、大変はげみになるような声をいただいています。

しかし、同時に課題も表面化しています。

活動が始まって9年がすぎ、今年2月には協力員（世話人）が2名増えましたが、会の全体的な高齢化は深刻です。また、男性参加が低調であり、参加してもらうには、どのような取り組みが必要になってくるのか・・・と、頭を悩ませています。これらの課題解決のためには、まず“町内会”との連携が必要だろうと思っています。

町内会と連携することで、活動の意義や効果を、さらに多くの住民に知っていただくことができ、協力員（世話人）などの高齢化に対しても、改善策が見つかるのではないかと考えています。



▲「お番茶ふれあいの集い」でのクリスマス会

●池田区「池田はつらつサロン」活動の実践から探る地域福祉活動の展望

池田区 池田はつらつサロン 区長 和田 求 代表 服部 富善



▲ 池田区・和田区長（写真：左）
池田はつらつサロン・服部代表（写真：右）

先程ご紹介をいただきました池田区長の和田と申し上げます。

『池田はつらつサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望』ということですので、私からは、主に池田区の概要と、池田はつらつサロンと地区の関わりについてご報告いたします。

まず、池田区の位置ですが、町の中心からやや南東側に位置しており、都会でいうところの“ベッドタウン”のような存在かと思っております。

世帯数ですが、公式には平成22年2月時点で、94となっています。また、高齢化率も21%で、町の平均からも大きく下回っているように見えますが、

若年層の賃貸住宅などの入居者が世帯数の約半数をしめており、10年、15年前と比較すれば、従来から暮らす世帯は、非常に少なくなっているのではないかと考えておりますし、高齢化率も賃貸住宅暮らし世帯を除けば、30%を確実に越えているような状況です。

そんな池田地区ですが、「古くから二世帯同居」、「区内の組織活動で寄りあいが多い」、「むこ入りした人や新築移住者は、蓮華会舞奉納時に先払いをする」など、比較的、区内の催し物、祭事でつながりが深いのではないかと考えています。

このような状況にある中で、区としてもサロン活動の必要性を実感したのは、平成19年3月の、隠岐の島町の介護予防事業説明会において、「介護予防」の必要性・重要性を実感したこと、さらに、町の介護予防施策である「はつらつサロン事業」が、平成19年度の1年間、池田を会場に月1回ずつ実施されたことにあったわけです。

そして、地域主導におけるサロン活動の実施に向けて、区と「はつらつサロン事業」参加者で話し合いを重ねていった結果・・・

- ・必要な道具は社協から借りよう！
- ・健康の知識は役場に頼もう！
- ・誘い合って会員を増やそう！
- ・大きな制約もなく、押しつけもない気楽な会にしよう！
- ・区広報で、会員を募集しよう！

と、会としての方針を、まず決めました。

「池田はつらつサロン」の活動の詳細については、服部代表よりご説明します。

項 目	(1) H15年	(2) H22年	増 減 【(2)-(1)】
(1) 人 口	262	247	-15
(2) 世 帯 数	91	94	3
(3) 乳幼児、児童 ・生徒数 (0～14歳)	56	50	-6
(4) 15～64歳人口	157	145	-12
(5) 高齢者人口 (65歳以上)	49	52	3
(6) 高齢化率 (65歳以上の人口÷地区人口)	18.7 %	21.1 %	2.4 %

池田区人口推移

ご紹介をいただきました「池田はつらつサロン」の服部と申します。

私からは、先程区長さんからふれていただきましたが、実際にサロン活動開始までの経緯についての詳細と、活動内容、さらには課題についてご報告いたします。

「池田はつらつサロン」は、65歳以上の高齢者が、高齢化が進む中であっても、自立して楽しい生活を営むために「脳を使う」、「身体を使う」、「ス

トレスをためない」という、地域における“介護予防”を主眼としたサロン活動として、平成20年4月に立ち上げたわけですが、その4月の初会で、会則や年間の活動計画などを話し合い、図（上図）のようになりました。

次に、平成21年度の年間計画ですが、新年度の計画づくりをはじめとして、健康づくりの軽スポーツや、銭太鼓の練習にも取り組んでいます。

実施時期	内 容	実施時期	内 容
4月	新年度計画づくり	9月	銭太鼓教室 軽スポーツ
5月	新緑の今津八十八カ所巡り	10月	保健師さんの健康教室 軽スポーツ
6月	保健師さんの健康教室	11月	紅葉見物
7月	体操や軽スポーツ	12月	忘年会（会員手料理による食事会）
8月	銭太鼓教室	1月	かるた会

「池田はつらつサロン」を実施して丸2年を迎えようとしているわけですが、小規模であるがゆえにネットワークが良く、それぞれができることを、できる範囲でにないあっていますし、冗談をいいながら、常におもしろおかしく時間をすごしています。また、会員の普段と違ったおもしろい一面が見られる機会としても、非常に効果を感じています。

最後に課題ですが、介護予防としてのみならず、様々な専門機関や名人等との連携を強化して、地域住民みなが、80歳になっても新しいことに挑戦する気持ちを持ち続ける気運を高め、閉じこもりのない地域づくりの一助になればと思っています。

再び区長の和田でございます。

最後に、『池田区における福祉活動の展望』ですけれども、現在、池田区では高齢者世帯は地区活動の出役免除、当番制の掃除、順番制の広報配布の免除は行っていますが、高齢化が進む中、その他の援助については今のところ課題となっております。

「池田はつらつサロン」活動が年輪をかさねていき、地域全体が自立した楽しい生活集団になれば、個人の生活環境が変わっても相互援助が自然に受け入れられ、ストレスのない生活が出来ると思います。区としては、この第一歩の活動が続くよう援助すべきではありますが、「援助はできないが、期待はしている」という状況です。

会 名 称	池田はつらつサロン
会 員	会員制 ※ 男性4名と女性4名の計8名
参加対象者	65歳以上の高齢者
基本開催場所	池田木木館
基本開催日時	月1回 第3木曜日 午前9時30分～午後3時
参加者負担金 (1人1回あたり)	800円（内500円は、弁当代）
参加予定数 (月1回あたり)	毎回平均 7名の参加

▲「池田はつらつサロン」概要



▲「池田はつらつサロン」食事作り

<福山平成大学・藤井教授>

藤田様、池田区の和田様、そして服部様ありがとうございました。

それでは、ここで村下先生よりコメントをいただきたいと思います。



▲ 隠岐保健所・村下 伯 所長

特に「お番茶ふれあいの集い」では、カルタ取りをしておられる写真が印象的で、ご報告いただいたとおり、高齢や障がいのある方も積極的に参加していただいている。そんな実践の特徴が出ている一枚だったと感じております。

そして、池田区の実践についてですが、私自身、二点学ばせていただいたと思っています。

一点目は、率直に「今の地域にとって“介護予防”って、必要なことなんだな」という気づきや実感から、すぐ行動にうつしている点。

二点目は、私も“合い言葉”にしたいと思いますが、「道具は借りよう！知識は頼もう！気楽にいこう！」という言葉。ぜひ、ご来場の皆さまも、マネされてはいかがかと感じました。

私からは、以上です。

<福山平成大学・藤井教授>

村下先生、ありがとうございました。

私からも一言申し上げますが、池田区の取り組み。

とにかく地域における活動というのは、草の根的に実践することが大切ではあるんですが、そんな活動をもっと多くの住民の方に知ってもらわなければ、発展はしていかないんですね。

そういうことから、区の広報誌で会員を募集するということは、非常に有効な手段であると感じました。

それでは次に、加茂区の「はつらつクラブ」について、そして、山田区「山田振興会」について、それぞれご報告いただきたいと思います。



▲ 福山平成大学・藤井 悟 教授

<隠岐保健所・村下所長>

二地区のシンポジストの皆さん、ありがとうございました。

両者ともにいえることですが、写真の“笑顔”が非常ににこやかで、素敵だったとお見受けしました。



▲「お番茶ふれあいの集い」でのカルタ取り

●加茂区「はつらつクラブ」活動の実践から探る地域福祉活動の展望

加茂区

副区長

門脇 弘

はつらつクラブ

代表

野津 智恵子



▲ 加茂区・門脇副区長（写真：左）
はつらつクラブ・野津代表（写真：右）

また、地域の産業についてですが、加茂区には他地区にない特徴として、大きな巻き網船団が二社あり、70名程の雇用を生んでいます。

さらに、親の面倒を見るためのUターン者が相当いるという二つの特徴があります。

続いて「ふれあい・いきいきサロン」活動開始のきっかけですが、直接的なきっかけとなったのは、先程の池田地区と同様、町の介護予防施策である「はつらつサロン事業」が平成19年度の1年間、加茂漁村センターで月1回ずつ実施されたということがあげられます。

同時に、町や社協から「平成20年度以降は、地域で継続できないか？」という要請を受けたところですが、加茂区としては、平成17年3月に「加茂地下組」から「地縁団体加茂区」となり、規約において「地域的な共同行動を行うことにより、良好な地域社会の維持および形成に資すること」がうたわれ、共同行動の一つとして『健康福祉活動』がかかげられたわけです。

これにともない、平成18年から、区の活性化のために「役員会体制強化策」の検討に着手し、平成19年には、区に『健康福祉係』を設置し、その主任（担当）に女性を任命しました。

ちょうど、この役員会組織改革と「はつらつサロン事業」の実施時期が一緒になり、「はつらつサロン事業」を地域で継続していくような形態として『はつらつクラブ』立ち上げのため、次のような取り組みを行ってきました。

- ・健康福祉係の他、『はつらつクラブ』サポーターを区広報等で公募。
- ・役場主催『はつらつサポーター養成講座』の受講。
- ・区広報や個別的な呼びかけで、参加希望者を公募。
- ・役場・社協とも相談しながら、年間活動計画や基本メニュー作成。
- ・区のサポートとして、運営費補助や関係機関と連絡調整。

加茂区の副区長をしております門脇です。

私からは、主に加茂区の概要と、はつらつクラブ立ち上げの経緯についてご説明いたします。

まず、加茂区の位置ですが、島のほぼ真南に位置しています。

『人口の推移・特徴』ですが、図（下図）のとおり、人口や乳児・児童数は大きく減っていますが、世帯数や高齢者数は増えているという状況です。また、高齢化率は34.3%で、全町域での平均とほぼ同じとなっています。

項 目	(1) H15年	(2) H22年	増 減 【(2)-(1)】
(1)人 口	453	402	-51
(2)世 帯 数	164	174	10
(3)乳幼児、児童 ・生徒数 (0～14歳)	67	38	-29
(4)15～64歳人口	253	226	-27
(5)高齢者人口 (65歳以上)	133	138	5
(6)高齢化率 (65歳以上の人口÷地区人口)	29.4 %	34.3 %	5%

◀ 加茂区人口推移

その「はつらつクラブ」の活動の詳細については、野津代表よりご説明します。

私野津からは、「はつらつクラブ」の活動と課題をご報告いたします。

平成22年2月時点での活動状況に関して、まず「会員」についてですが、会員制をしいていて、男性7名と女性20名の計27名です。

「参加対象者」は、地区の65歳以上の高齢者の方であれば、どなたでも参加可能にしています。

開催回数は、月1回の第4木曜日10時～14時30分として、利用料は1回800円を設定していますが、内500円は昼食代にあてています。

活動内容については、基本的に“介護と閉じこもり予防”を主眼とした内容で、協力員（世話人）で出した案を、会員さんに了解していただくといった方式です。

平成21年度の年間計画では、「雨にも負けず」の加茂バージョンの作成や介護予防レクリエーションなどを基本として取り組んでいます。

実施時期	内 容	実施時期	内 容
4月	「部長・課長ゲーム」 「あんたがたどこさ」	9月	ドッチビー
5月	「雨にも負けず」加茂バージョン作成	10月	—
6月	風船バレー	11月	紅葉見物
7月	御霊会のビデオ鑑賞 七夕飾り制作	12月	クリスマス会・カラオケ
8月	足指ティッシュ運び競争 風船ゲーム	1月	かるた会

池田区同様、実施して丸2年をむかえようとしているわけですが、性別、年齢差、体力差など様々であり、満足のいく内容が企画できているだろうか・・・と、常に不安はつきまっています。

そういった不安を少しでも解消するために、私たち協力員（世話人）も、勉強していくことが必要だと感じています。

とはいえ、負担は少しでも少ない方が長続きすることにもなりますので、島中の輪を広げていくと同時に、地域住民へも今以上に理解を得ていきたいと考えています。

再び副区長の門脇でございます。

最後に『加茂区における福祉活動の展望』についてお話しします。

「はつらつクラブ」は、加茂区健康福祉係の一つの業務として実施しているわけですが、人口減少がいちじるしい中、にない手不足でもあります。単に実施回数を増やすことでなく、『さらに質を高めて、息の長いものに』ということを目指し、活動を通じて、一人でも多くの区民が健康で長生きしていくお手伝いができればと願っています。



▲「はつらつクラブ（加茂）」健康体操

●山田区「山田振興会」活動の実践から探る地域福祉活動の展望

山田区 区長 田中井 敏勝
山田振興会 代表 中 西 昇



▲ 山田区・田中井区長（写真：左）
山田振興会・中西代表（写真：右）

人口動態についてですが、平成22年2月時点で、図（右図）のとおり、高齢化率43.1%と、町内でもかなり高い部類です。

また、今年度は、隠岐の島町社協より『災害時たすけあいモデル事業』の指定を受け、有事の助け合いは、平時の助け合いの仕組みと連動していることが大切ということで、その仕組みづくりを進める取り組みを行っています。

その取り組みの一環として実施しましたアンケートの一部をご紹介します。

五箇・山田区長をしております田中井です。

山田地区における「山田振興会」活動をはじめとして実践しております取り組みについて、ご報告いたします。

まず、地区の特徴ですが、大峰山を背景とした山間傾斜地です。住居は散居状態で、地区の全面積の90%は林地であり、その林地は地滑り指定地帯が多い状況です。

また、生計形態は、年金、賃労働者が中心で、零細な田畑耕作での自給自足が主になっております。

項 目	(1) H15年	(2) H22年	増 減 【(2)-(1)】
(1)人 口	185	181	-4
(2)世 帯 数	77	79	2
(3)乳幼児、児童 ・生徒数 (0～14歳)	24	15	-9
(4)15～64歳人口	81	88	7
(5)高齢者人口 (65歳以上)	80	78	-2
(6)高齢化率 (65歳以上の人口÷地区人口)	43.2 %	43.1 %	-0.1 %

◀ 山田区人口推移

★近所付き合いについて。

日頃から（78%） 顔が合えば挨拶程度（20%）

★日頃の悩みや不安について。

自分の健康（28%） 家族の健康（19%） 収入や家計（10%） 介護（8%）
災害（8%）

★困ったときの相談相手について。

家族（33%） 親族（26%） 知人・友人（13%） 近所（6%） 区長（6%）

★困ったとき地域でして欲しいことについて。

安否確認（31%） 話し相手（20%） 買い物（18%） 病院等の送迎（15%）
家屋の掃除・小修繕（7%）

このように、地域住民自身も、単に行政施策に頼りきるのではなく、地域の中で助け合って、又、地域に期待する部分が多いという結果が現れているわけです。

続いて、山田区の産業構造と就労状況を見てみます。

図（右図）のとおり、平成17年ですが3人に1人は「建設業」や「医療・福祉」に従事しており、昔に比べれば、賃労働者が増えたということが実感として感じ取れたわけです。

これまでの、人口推移や区民アンケート、産業構造を見てみますと、私自身も新たな気づきと再認識したことを、以下のとおり四点にまとめてみました。

産業分類（15歳以上就業者数）	平成17年	割合（%）
就業者総数	67	100%
農業	9	13%
林業	1	1%
漁業	1	1%
鉱業	1	1%
建設業	20	30%
運輸業	4	6%
卸売・小売業	7	10%
医療・福祉	12	18%
教育・学習支援業	4	6%
複合サービス業	2	3%
サービス業（他に分類されない）	3	4%
公務（他に分類されない）	3	4%

▲ 山田区産業分類

- ①高齢化・少子化傾向がさらに進行することは、もはや避けられない。
- ②人口は自然減が一層高まり、又、子供の進学・就職による人口減も避けられない。
- ③これらの要因から、労働力は弱体化し、農地の荒廃、林業の衰退など生産力低下。
- ④山田地区の自治機能の維持、自然保全、生産活動の存続を図るため、「共同体意識」を更に醸成し、生産体系を、“集落営農形態方式”で組織化することが必要。
- ⑤家庭栽培や集落営農生産、四季の自然資源品等の流通・販路を安定化させ、換金する仕組みを構築することで、全地域住民の“生きがい対策”とする。

私の考える「共同体意識」とは・・・

- ・一人だけ幸せになることはあり得ないこと。
- ・情けは人のためならず。
- ・人間は社会的存在であることを運命づけられている。

だからこそ、「地域から目をそらさない！一人はみんなのために、みんなは一人のために！」心をつくすことが重要であると考えます。

このような気づきや再認識を、一つ一つ“取り組み”として実践してきた結果、現在、高齢化率43%をこえる山田地区においても、地域が非常に“元気”だなあと、感じることができます。

その元気の源をたどってみますと、以下のとおり七点あげることができます。

- ・全区民が、伝統や文化を大切に感じていること（絆の育成につながる）。
- ・もともと深い近隣愛・互助性が、さらに強まったこと。
- ・情報の透明化と連携を可能にするため、区組織体制を安定化させたこと。
- ・活動推進のよりどころとして、「山田地区ふるさと基本構想」を制定したこと。
- ・年間活動計画が確立しており、リーダーの役割が見えやすく、次のリーダーも育ちやすいこと。
- ・社協の助成事業をはじめとして、様々な助成制度を積極的に活用することで、財源の確保と安定化、さらには時代感性を育んでいること。
- ・拠点となる施設の機能整備を図ることで、快適に、便利に、そして楽しくという“活動の幅”を広げることができていること。

この後発表する山田地区のサロン「山田振興会」での活動も、“元気の源”としての実践の一環として取り組んでいるわけです。

その詳細につきましては、中西代表よりご説明します。

「山田振興会」の中西と申します。

私からは、「山田振興会」設立経緯に若干ふれさせていただいた後、活動内容、課題についてご報告し、再度田中井区長へマイクをお返ししたいと思います。

それではまず、「山田振興会」設立経緯についてですが、私個人として感じる場所は、約10年前に田中井さんが区長へ就任されたことを契機に、区としての改革に積極的に取り組まれ、自治会としての目的も、『区民相互の親睦と福祉の向上を図り、明るく住みよい地域づくりに寄与すること』を掲げられたことにありました。

そして、私が退職した後、山田区として掲げる“共同体意識”の醸成を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」の実施に関して田中井区長より要請を受けました。

私としても、一地域住民として、田中井区長の考えに共感し、「地域のために何かできることがあるかもしれない！」と感じ、引き受けるにいたったわけです。

図（右図）のとおり、「山田振興会」の一つの特徴として、会員制度を設けずに、区民全員が参加していただけるよう『住民皆会員制度』としています。



▲「山田振興会」ふるさと昔話（紙芝居）

これは、田中井区長の、「区民誰もが自由に参加できる機会を提供することで、人と人とのふれあいを活かし、相互の絆を深め、区民全員が元気に暮らせるようにしたい」という方針からきているものです。

現在、基本は2名の協力者（世話人）ですが、参加者の中には、協力者と一緒になって手伝って下さる方もおられたり、企画内容に応じて、地域の方が講師になっていただいたり、地区外からもまねいたり、工夫しながらみんなで和気藹々（わきあいあい）と運営しています。

そんななごやかな雰囲気のもと、区民相互の“交流の場”として、定着してきているようにうかがえます。しかし、当然ですが課題もあります。

参加者については、固定化している傾向にあります。できるだけ多くの人が参加できるよう工夫が必要ですし、お互いに誘いあつての参加を促進していきたいと考えています。

内容については、男女や年齢に関係なく、参加できる内容を工夫することが必要だと思いますし、地区外からの講師をまねくことは、なんといっても経費がかかるのが現状です。

また、住民への周知についても、区の連絡便でチラシを各戸配布していますが、実施月になってからの配布になっているのが現状で、参加者固定化の一要因ではないかと推察しているところです。

再度、区長の田中井でございます。

最後に、『今後の地域福祉活動の展望』ということで、現在山田地区で、社協より指定を受けております『災害時たすけあいモデル事業』による活動と関連づけながら、「すぐにでも取りかかれそうな活動」、「今後必要と思われる取り組み」、「これからの展望の方針」という、三点に分けてまとめさせていただきたいと思います。

まず、「すぐにでも取りかかれそうな活動」ですが、以下の六点をあげてみました。

- ・ 小グループによる“見守り・声かけ運動”の仕組み化。
- ・ 高齢者のみの世帯へ「防犯シール」配布と貼り付け依頼。
- ・ 独居高齢者への「安否視認旗」の配布と掲揚を依頼し、さり気ない見守りを促進。
- ・ 避難場所周知をふくめた「避難路マップ」の作成と、全戸に対する配布。
- ・ 高齢者を対象とした「避難訓練」と「救助訓練」の実施。
- ・ 「生活応援隊」の組織化。

次に、「今後必要と思われる取り組み」として・・・

- ・ 他地区との交流活動。
- ・ 災害などにより、通信手段が絶たれた場合の対策、緊急時連絡順位の明確化として「緊急時連絡網」の整備。
- ・ 有事のために、各世帯での“そなえ”の促進。
- ・ 老老介護に対して、地区での「配食サービス」や「お手紙交換」などの活動化。

という四点。

最後に「これからの展望の方針」ですが、私自身、これからの地域づくりに関するキーワードは『集落の元氣なくして繁栄なし！生産なくして繁栄なし！』というように考えています。

集落の衰退はむなしい暮らしになりますし、生産とは“生きるための糧（かて）”であり、貧乏でも物（者）を育て、創る喜びを感じることはできます。したがって、それが“豊かさの価値観”にむすびついてくるものだと思います。

その豊かさも、全ては地域の総合力によって育まれます。地域福祉も産業も、子育ても、伝統文化も、安心して働きに出かけられるのも、自然との共生も、全てはみんなの力（総合力）なのです。

ゆえに、弱い立場にある者は、自然界の教訓に学ぶことが大切なんです。小魚や小鳥が強い者から身を守る知恵は“集団”で対抗するしかない。おとろえゆく集落も同様、みんなが力を合わせれば“生きのびる道”がひらけてくるでしょう。すなわち、声かけあって、助け合って、共に暮らす！ということです。

最後になりますが、ある詩をご紹介します。

よい死に方をしようと思えば　よい生き方をするしかない
自分のことばかり考えんと　ちょっとは他人のことも思うて
やさしく優しく、それしかない

以上でございます。



▲ コーディネーター・藤井教授（写真：左）
コメンテーター・村下所長（写真：右）

わけですが、参加者の自主性も大切にしながら、又、健康づくりという観点からも、毎回の体操、月別に違う内容を、非常に上手に組み合わせているなあと感じました。

＜福山平成大学・藤井教授＞

そろそろ時間になってきましたので、山田区につきましては、私からコメントさせていただきたいと思います。山田区は、非常にするどい地域の分析力、しっかりとした課題把握の方法をお持ちだなあと、率直に感じました。

特に組織づくりのところが、単に自治会区ということではなく、全てを統合したような組織づくりをしているとお見受けしましたし、このような組織づくりの方法が、隠岐の島町の、今後の圏域づくり構想にもいかされる手法だと感じました。

そして、サロン活動につきましても、住民全員が会員であり、誰でも参加していいんだという、先程私が講演で申し上げたことを現実に実践しておられる。しかし、それでべらぼうに参加者が増えていくということではなくても、門戸を開いている。これが大事なことだと思っております。

そして、全体としてのまとめに入らせていただきますが、四地区の活動報告をうかがっていますと、非常に自信を持って、地域の活動をご紹介いただいたことについて、非常に感動しておりますし、“**隠岐の島町の地域福祉の底力**”を見たような気がいたします。

長時間にわたり、皆さま、本当にご協力ありがとうございました。

以上で、シンポジウム「ふれあい・いきいきサロン活動の実践から探る地域福祉活動の展望」を閉じさせていただきます。ありがとうございました。



参 加 者 の 感 想

隠岐の島は「長寿の島」というイメージがありましたが、隠岐保健所・村下先生のお話の中で、男性の寿命が県平均以下とは、おどろきました



各地区とも大変よく頑張っている様子がかがえて、参考になりました。

私たちも、サロンとしてはこれからですが、公民館活動として、がんばっています。

毎月の開催となると、内容が大変で、行きづまりを感じることもあります。

そういう意味で、このような情報共有の機会をつくることは重要だと感じました。

各地区の方々が、それぞれ考えて、楽しく活動されているのが見えて、参加して良かったと思いました。



我々の常識では、「サロン活動」といえば“高齢者”と決まっているものと思っていましたが、藤井先生の講話で、「異年齢・異業種の交流」「最終目標は、安心・安全のネットワークづくり」の提言に納得できました。

“地域づくり”は誰のために！と考えれば、今日のように大変良いフォーラムに、『若者』の参加がないのは、とてもさみしく感じました。



講師の先生方のお話に、久しぶりに“骨”のある内容を聞けました。

サロンは、事業ではなく「運動」としてとらえることが必要という点が印象に残りました。

福祉は“運動”！ともに手をつなぎ、前に進みたいと思います！！



「ふれあい・いきいきサロン」活動実践団体一覧

平成22年4月 現在

サ ロ ン 活 動 団 体 名	所在地	主 な 活 動 内 容
岬町しゃべらあ会	岬 町	健康状況の確認と異世代交流、親睦。
港町自治会健康福祉部 よらあ会	港 町	季節感を感じていただける活動。 健康維持・増進に寄与する活動。
なだの里	西 町	高齢者の健康作りと生き甲斐作りなどの介護予防活動。
お番茶ふれあいの集い	栄 町	身近な生活情報の交換と地域の交流の場作り。 健康と生き甲斐に寄与する活動。
スマイルマミー	栄 町	コーラスや交流活動を通じた、子育て家庭の孤立感防止 に寄与する活動。
サロン友愛会	大 久	会食を通じた高齢者の閉じこもり予防と安否確認。
犬来ふれあいサロンともだち	犬 来	健康作りと介護予防に資する活動。 閉じこもり予防のお茶のみ情報交換。
下西まめな会	下 西	地域住民の健康と介護予防の活動。
今津ふれあいサロン白鳥	今 津	会食を通じた高齢者の閉じこもり予防と安否確認。
西田なかよしサロン	西 田	会食を通じた地域高齢者の閉じこもり予防。 健康維持・増進のためのレクリエーション。
はつらつクラブ	加 茂	介護予防と閉じこもり予防のレクリエーション、製作活動。
まにの里	有 木	月1回の交流会食。 野菜出荷。
池田はつらつサロン	池 田	介護予防と閉じこもり予防のレクリエーション、製作活動。
ふれあい・いきいき仲良会	西 村	健康増進・維持に寄与する活動。 茶話会を通じた閉じこもり予防。
布施地区和美学	布 施	介護予防と閉じこもり予防のレクリエーション、製作活動。
飯美地区和美学	飯 美	介護予防と閉じこもり予防のレクリエーション、製作活動。
卯敷地区和美学	卯 敷	介護予防と閉じこもり予防のレクリエーション、製作活動。
小路地区愛育班	小 路	健康作りや食生活の改善、茶話会。
那久路地区愛育班	那久路	地域住民の情報交換、健康相談を通じた閉じこもり予防 と、生き甲斐づくりを増進する活動。
山田振興会	山 田	健康維持・増進とふれあいの場づくりに寄与する活動。
ふれあいサロンひまわりの会	北 方	高齢者のいこいの場づくり。 健康維持・増進、生活意欲の向上に努める活動。
久見サロン	久 見	運動機能維持・向上の体操やレクリエーション、製作活動。
松原会あかり	釜 屋	地域貢献活動、高齢者の閉じこもり予防と健康増進、世 代間交流としての会食会や茶話会、健康講座。



「平成 21 年度 ふれあい・いきいきサロン活動推進フォーラム」は、
赤い羽根共同募金から配分を受け、開催いたしました。